

SELECTION OF SPEECH AND INTERPRETATION AMONG THREE PARTIES BY PORTABLE TELEPHONE

Publication number: JP2002142024

Publication date: 2002-05-17

Inventor: GOISHI JUNICHI

Applicant: GLOVA CORP

Classification:

- international: **H04M3/42; H04M3/56; H04Q7/38; H04M3/42;
H04M3/56; H04Q7/38; (IPC1-7): H04M3/42; H04M3/56;
H04Q7/38**

- european:

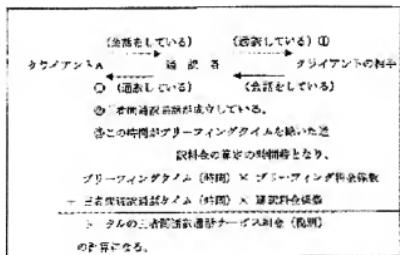
Application number: JP20000373556 20001031

Priority number(s): JP20000373556 20001031

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2002142024

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a selection method for a speech among three parties by portable telephones that allows everybody to make a conversation with an interpreter covering a required language and a required field independently of a distance from a talker at any time. **SOLUTION:** A party A desiring a phone call with a party B makes a phone call to the interpreter to request a 'interpretation of a speech among three parties' to from first a phone speech between two parties and the interpreter makes a phone call to the party B to establish a speech among three parities by way of interpretation.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本:特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願番号

特開2002-142024

(P2002-142024A)

(43)公開日 平成14年5月17日(2002.5.17)

(51)Int.Cl.
 H 04 M 3/42
 H 04 Q 7/38
 H 04 M 3/56

識別記号

F 1
 H 04 M 3/42
 3/56
 H 04 B 7/26

Z 5 K 0 1 3
 Z 5 K 0 2 4
 1 0 9 H 5 K 0 6 7

(21)出願番号 特願2000-373556(P2000-373556)
 (22)出願日 平成12年10月31日(2000.10.31)

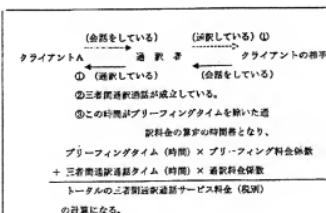
(71)出願人 500152061
 株式会社グローヴァ
 大阪市中央区西心斎橋2丁目3番2号
 (72)発明者 五石 順一
 大阪府大阪市中央区西心斎橋2丁目3番2号
 (74)代理人 580303679
 株式会社ノヴァ
 Fターム(参考) 5K015 AA01 AA10 AB00 JA01
 5K024 AA53 BB07 CC11 DD01 DD04
 EE09 FF06 GG01 GG03 GG10
 5K067 AA21 AA29 BB04 EE02 HH17

(54)【発明の名称】 携帯電話による三者間通話通訳

(57)【要約】 (修正有)

【課題】携帯電話によって、三者間通訳通話をおこなう事。

【解決手段】Bに電話を希望するAが通訳者に対してBへの「三者間通話通訳」を依頼する電話をする事によって、まず二者間電話が形成され、更に、通訳者がBに電話をかける事によって、三者間通訳通話が成立する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 二名の話者と一名の通訳者が携帯電話において、自分を除く二方向と同時に双方向通話を実現し、逐次通訳、同時通訳も可能な携帯電話による第三者間通話通訳。

【請求項2】 三者間通話の可能な携帯電話を使用する事によって、通訳センターにアクセスし、様々な言語を担当できる通訳者のネットワークを持つ通訳センターが通訳通話申込人の目的となる相手方に電話する事によって随時、該当言語の該当分野の通訳通話が可能となる通訳センターの設置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 該当言語と該当分野に精通した通訳者のネットワークを有する通訳センターを設置し、そこに通訳通話申込者が申込む事によって、随時、どの場所からも、対話者との距離に関係なく、該当言語と該当分野における通訳通話を利用する事ができるビジネス。

【0002】

【従来の技術】

【0003】 ポイント1

従来の通訳は通常、実際に話者と通訳者が対面して行うものであった。

ポイント2

従来の通訳では、電話等を使用しての通訳であっても、敏捷な逐次、同時の通訳はほとんど不可能であった。

ポイント3

電話などを使用しての従来の通訳において、通訳者の会話中は、話者同志がお互いの声を聞くことはできなかつた。ポイント4

従来の通訳では、必要となる外国语の通訳を行える通訳者を選定して、一堂に会するか、或いは電話を使ってであればどちらかの話者に接して行うため、準備段階に相当の時間を要した。通訳者の選定に関しては、言語だけの問題ではなく、通訳する分野の知識にも精通していないければならないため従来の方法では通訳者の選定に諱に苦労する所であった。

ポイント5

従来の通訳業務は料金の算定基準が不明瞭な場合もあった。

【発明が解決しようとする課題】

【0004】 (ポイント1) クライアントが話しをしたい時、または随時、携帯電話によって、該当する言語について、該当する分野における通訳付会話が行えるようになる。

(ポイント2) 電話を使用しての通訳であっても、逐次に加えて、或いは同時の通訳が可能であり、より敏捷で、臨場感のある通訳が行えるようになる。通訳は言葉の意味だけでなく、話者の雰囲気をも伝えるべきだから

である。

(ポイント3) 通訳者の声を聞きつつも、通訳者によって訳される会話者の音声を聞く事ができ、実際に訳されている事の安全性が高められるようになる。

(ポイント4) クライアントが複数の外国语に備えた通訳者達が待機するセンターに電話をし、通訳者がクライアントの希望する相手に、適宜、会話をつなぐため、従来の通訳形態に比較して、準備段階で時間を要しないようになる。

(ポイント5) 通訳料金の設定が、クライアントと通訳者の二者間の会話時間に根拠としたものと三者間通訳による会話時間に根拠としたものとの二つの合で成立づため、依頼者からも料金の算定基準が明確である。本発明によって、通訳業者と三者間通話システムの密接な連動により、国内を含み世界のあらゆる国の人々と同時に通訳会話が可能になる。一般生活及びあらゆる産業上で利用可能である。

【課題を解決するための手段】

【0005】 (ポイント解説1) 三者間通話の可能な携帯電話を使用する事によって、通訳センターにアクセスし、様々な言語を担当できる通訳者のネットワークを持つ通訳センターが通訳通話申込人の目的となる相手方に電話する事によって随時、該当言語の該当分野の通訳通話を可能にした。

(ポイント解説2) 通訳者が三者間通話の一者として会話に加わるので、話者の言葉を必ずしも、総て聞き終えてからではなく、逐次或いは同時に通訳が可能であり、話者の会話方法に内適した通訳が可能である。

(ポイント解説3) 通訳者の声を聞きつつ、通訳者によつて訳される会話者の音声も重なり、言語の音声の感覺、語氣等が伝わり、言葉の意味に加えて、話者の情緒的なものも伝える事ができる。

(ポイント4) 複数の外国语に備えた通訳者達が通訳センターに待機する、或いは通訳コーディネーターセンターから、必要とされる外国语の能力を有する通訳者に緊ぐため、わざわざ、電話帳などで、自分で適した通訳者を選定するなどの労と時間を要しない。

(ポイント5) 通訳料金の設定が、クライアントと通訳者の二者間の会話時間に根拠としたもの(ブリーフィングタイム)と三者間通訳通話による会話時間(通訳通話時間)に根拠としたものとの二つの合で成立づため、依頼者からも料金の算定基準が明確である。

【発明の実施の形態】

【0006】 (1) この電話の三者間通話システムによる即時対応の通訳ネットが拡充される事により、例としては、世界中で旅行者や滞在者の緊急時にその人の母国の言葉を知る者がいないために対応の遅れる危険性を回避できるといえる。

(2) 海外旅行のため現地のホテルを予約する際など、本人が聞きたい項目などをより詳細随時確認することがで

きる。

③ 諸外国の方々の労働力が日本の第一次、第二次産業等を中心として、生産分野に携わる場合においても、電話という隔絶した距離における通話機器というニュアンスでなく、例えば肉声の聞こえる近接距離においても、携帯電話に通訳機器としての意味を持たせる事ができる。人が限られた時間の中で、複数の国語を修得するという事は事実上不可能であるが、通訳センターを設置し、電気通信機械器具によってこのシステムを利用できる事により、今後、急速に進む、産業の場における多国籍化の時流の中で、言葉の障壁を取り除くに多大の貢献をするものと考える。

④ 海外出張や海外旅行の際など、携帯用の電気通信機械器具を2機保有する事によって、言葉が理解できない場合に相手に1機を貸し渡し、本件に説明された第三者間通訳通話システムを運用する事によって、意図の疎通を図る事ができる。

業務の流れ

下記の第一段階から第四段階迄の流れをもって、通訳通話申込人の依頼から料金の請求迄の業務とする。通訳通話の形態を（1）『通訳通話形態』として、並行して、業務の流れや行動の形態を、（2）『業務形態』として、同時に、通話管理を料金計算に明解に当てはめた、段階ごとの計算方法を（3）『料金の計算』として表記する。

第一段階

（1）『通話形態』

通訳を希望するクライアント（通話申込者）から、通訳者が待機する通訳センターに電話し、通訳センターのコネクティングスタッフが電話を受け取る。この作業において当然に通話申込者と通訳者の間の二者間通話は成立する。

（2）『業務形態』

通訳センターのコネクティングスタッフはクライアントから、クライアントが通訳通話を希望する相手に電話をし、三者間通話通話を実行する旨の承諾の意志の確認する行為を計け負う。尚、この時点において、その後の電話による訳通話の内容が直感かつてに行なうため、事前に話しの内容を簡約化するためのブリーフィングを行ない、話したい内容の核心の部分や意図を開いておく。例えば、このブリーフィングにおいて、通訳通話の主題を決定しておく事が、第二段階において、通話の目的を話して通話の承諾を求める際に役立つだけではなく、通訳する際の微妙なニュアンスの違いを明確に区別して訳すべき言葉の選択を行なえる事になるのである。

（3）『料金の計算』

この時点において、ブリーフィングタイムとして料金を計算する。ブリーフィングタイムの料金の算定の基礎は電話会社における二者間における通話時間と通話料金であり、電話会社内の自動料金計算システムと連絡して、

通訳会社の自動料金計算システムがブリーフィング料金を計算する。

※図1参照

第二段階

（1）『通話形態』

クライアントが希望する海外の電話相手に電話をかける旨を告げ、電話機の転送ボタンを押して、相手方の電話番号を押し、相手を呼び出す。当初の通訳通話申込人と通訳者の二者間の電話回線は繋がった状態であるが、通話はしていない。通訳者は通訳通話申込人が希望する相手方と会話をすべく回線を繋ぎ、繋がれば通訳通話申込人の申込みに対する承諾か否かの意志を確認する。

（2）『業務形態』

第一段階で依頼された業務の実行

クライアントの指示する電話相手に電話をかけ、通訳を司る通訳センターからの電話であり、クライアントが通話を希望している旨を告げる。

（3）『料金の計算』

相手に通話が掛かった時点から、通訳料金の算定の時間となる。

※ 図2参照

第三段階

（1）『通話形態』

相手が電話を受ける事を承諾した場合に、転送ボタンを再び押して、クライアントとともに繋がり、ここで、クライアントの希望する相手方と通訳センターのコネクティングスタッフの回線と担当すべき通訳者の回線が交換して、三者間通話が成立する。尚、この段階において、通話の内容は通訳者の言葉のみならず、クライアントと、クライアントが通話を希望する相手方の音声も同時に聞こえるシステムとなる。この状態で通訳業務が行われる事になる。

（2）『業務形態』

この段階において、三者間通話通訳が成立する。

（3）『料金計算』

電話料金と通話時間とを計算根拠とした通訳料金の算定期間の時間である。

※ 図3参照

第四段階

（1）『通話形態』

三者間通話通訳の終了

（2）『業務形態』

通訳業務の終了

（3）『料金計算』

通訳者の電話番号と相手の国と通話時間によって、電話会社内での自動料金計算システムに連絡して、通常の電話料金に一定の係数を掛けて、通訳料金を算出する通訳システムの自動料金計算システムによって、通訳料金を算定し、クライアントに請求書が送付される。

※図4参照

【発明の効果】

【0007】この発明により、誰もが随時、話者との距離に関係なく、必要言語で必要分野の通訳者による通訳付会話を行なう事ができ、料金計算も、通訳料金係数×電話会社通訳料金であるため、料金計算も明確である。

【図面の簡単な説明】

【図1】通訳通話申込者から、通訳センターへ申込みと通訳センターのコネクティングスタッフとの話しの骨子の内合わせ（ブリーフィング）を示した図である。

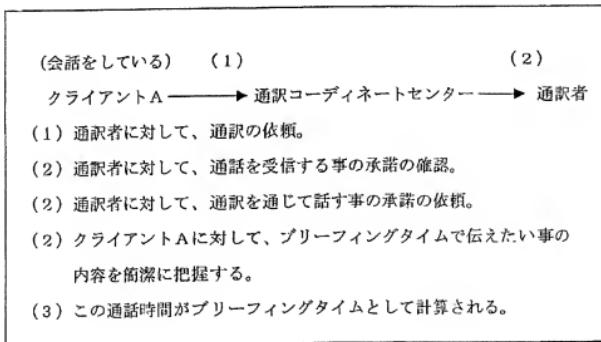
【図2】クライアントと通訳センターは回線は繋がっているが保留の状態であり、通訳センターとクライアントが会話の対象とする相手方の回線が繋がり、クライアン

トからの申込を受託するかどうか確認している図である。

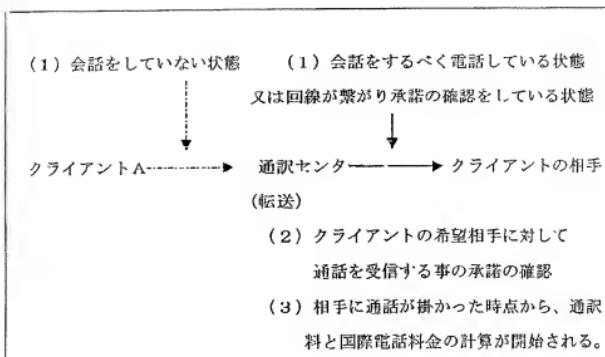
【図3】クライアントの申込と相手方の承諾があつて、クライアントと通訳センターの回線、通訳センターとクライアントの回線がつながり、三者間通訳通話が実現した状態であり、この時点で三者が互いの音声を聞き取れる状態である事を示した図である。

【図4】電話会社の自動料金計算システムに連結した、通訳会社の自動通訳料金システムにより、通訳料金が計算され、算出された料金を掲載した請求書をクライアントに送付する事を示した図である。

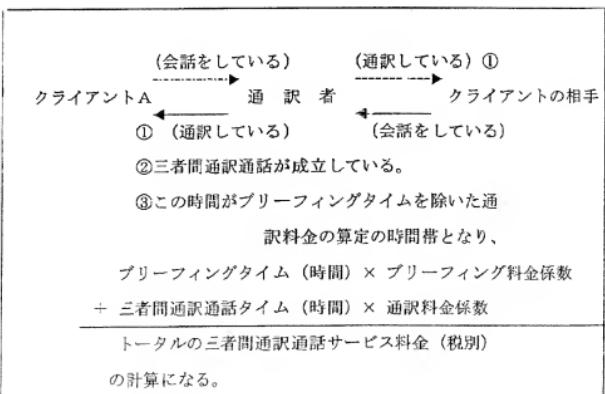
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

